



2021年8月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本郷町2-11
THE YMCA 神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上真二
編集人/松森正樹
印刷/南わかばやし印刷

年間聖句 「光あれ。」 創世記 1章3節

神戸YMCA大会

常議員 秀平悠磨さん
(神戸YMCA大会ワーキンググループ)

“俺達と共に行こう 港町の戦士”

この一文だけをみてRed River Valleyのメロディーで口ずさめた方は、相当のヴィッセル神戸サポーターとお見受けします。かく言う私も、年間シートを持つサポーターです。この一文はヴィッセル神戸のチャントの一つです。チャントとは応援歌のようなもので、サポーターが選手を鼓舞し一緒に戦うために歌うものです。また、チャントには聖歌という意味もあるようです。

YMCA大会はYMCAに集う人が、YMCAに対する思いを再確認し、チャントのように思いを共有する場だと思っています。

6月26日(土)、神戸YMCA大会が2年ぶりに開催され、約65名の方がZoomで、また、神戸YMCA三宮会館ではソーシャルディスタンスをとりながらコースリーダーの皆さん約20名と現場の職員の方を合わせると、合計100名弱の方がご参加くださいました。改めて御礼申し上げます。また、アンケートにもご回答くださりありがとうございます。多岐に渡るご意見は来年

以降に反映したいと思います。

一昨年度から総会は神戸YMCA大会に衣替えし、総会構成員以外の方にもご参加いただける形式とし、広く神戸YMCAについて知っていただく機会となりました。しかし、昨年度は開催を断念し、今年度は検討の末オンライン参加のみとなりました。

オンラインだけとなり、いかにYMCA大会であることの意義を出すのか。この点にワーキンググループは頭を悩ませました。コロナ禍におけるYMCAの存在意義の再確認とも言いましょうか…。YMCA。中道会長が昨今大事にされている「A」の意味。YMCAは人が集まる場であることの大切さ。

そのため、初のオンライン開催であり、かつ初対面の人もいだろうことが想定されましたが、グループセッションの時間を設けました。これに対しては、不安をよそに概ね好評を頂きました。また、コロナ禍においてさまざまな取り組みをしていることを知っていた、光を感じていただければと思います、現場の活動

報告の時間をとりました。その他にもスポットを当てるべき活動はありましたが、時間の関係もあり、上記に絞りました。ご容赦ください。

冒頭のチャントですが、「どんな奴等が来たって 恐れることはない」と続きます。コロナ禍という未曾有の事態の中にありますが恐れることなく、YMCAとともに、この困難に明るく立ち向かっていければ。そのようにYMCA大会を通して感じていただけたら幸いです。



新しい委員会 現代の課題に向き合うために

委員会活動の活性化に向けて、委員会再編のためのミーティングやタスクチームが持たれ検討を重ねてまいりました。青年会常議員会、公益財団法人理事会での協議を経て、先日の神戸YMCA大会(総会)で、ご報告をさせていただきました。

ユース委員会と地域委員会は発展的解消といたしました。ユース委員会は、全国のYMCAの中でいち早くユース世代だけで構成された委員会でしたが、10年以上を経た今、それぞれの委員会活動において、ユースを交えて新しい価値観を共有していきたい、またリバースメンターとして意見を共有しあいたい、という願いを込めて、旧ユース委員の皆さまには他の委員会に移っていただきました。地域委員会は各事業の変化と共に公益財団所轄の委員会としての役割は終えましたが、今後はより広義に地域を捉え、市民の願い・課題に寄り添うことから、3法人からなるYMCAとしての強みが求められ、新たな取り組むべき使命とそれを担う領域を考えていくことが必要であると思います。

コロナ禍で人との交わりに制限が生じておりますが、一旦全てを手放して慣例に捉われずに新しい仕組みを考え出すことが出来るチャンスだと考え、これまでの踏襲ではなく、新しいものを創りだしていくことにチャレンジしてまいります。

1、神戸キリスト教青年会(神戸YMCA)

1) ミッション委員会

キリスト教使命の推進、教会・キリスト教団体等との協働について担当します。

古澤啓太、原真和、西本玲子、有友裕美子、藤井久子、片岡正義、寺崎真、村田奈緒美

2) 会員増強委員会

維持会員・賛助会員など会員の増強や、青年のリーダーシップ開発についての研究や提言について担当します。

上杉徹、美崎晋、石井恭子、岩住賢、大野勉、中道基夫、須貝春香、秀平悠磨、河野彰、松岡寛

3) 国際委員会

国際的活動全般についての研究や提言、国際関連情報の集約と発信について担当します。

Ronni Alexander、中尾秀一、東恭子、坂西卓郎、廣瀬献児、山内慎平、四宮捷平、細見佑子、高月渚

4) 役職人事委員会

青年会の重要な役職の選任について担当します。

中道基夫、清水泰人、井出浩、川崎孝子、菅根信彦、井上真二、西田勉、松田道子、小澤昌甲、坂本滋

2、公益財団法人神戸YMCA

1) 学校教育事業委員会

カレッジ、西神戸ランチにおける学校教育事業の推進展開について担当します。

海老直人、土肥伊都子、岩本哲人、岩野祐介、濱瀬真知子、中出恵子、松田道子、松本聡子、上谷円、栗原由加

2) ウェルネス事業委員会

健康教育事業、野外教育事業、キャンプ事業について担当します。

高見彰、船越達也、白坂大輔、矢野琢也、小野昌二、井上真二

3) 余島委員会(休会中)

余島野外活動センター及び余島キャンプの事業運営について担当します。

川島恵美、小栗献、川島憲志、猪飼政昭、坪松博之、荒木真一、島田恒、馬場貴英、鶴丹谷剛

4) 役職人事委員会

公益財団法人の重要な役職の選考について担当します。

中道基夫、清水泰人、井出浩、川崎孝子、菅根信彦、井上真二、西田勉、松田道子、小澤昌甲、坂本滋

5) 総務委員会

公益財団法人のマネジメント全般について、特に財務について担当します。

中道基夫、清水泰人、進藤啓介、井上真二

(敬称略、順不同)



キャンプ部屋という実験

キャンピングサービス 阪田晃一

寄附や協賛などのご支援を受けて、「失われた空間」を取り戻すために、予算30万円くらいでキャンプ部屋ができあがりました。カレッジの空部屋を期限付きで貸してもらっています。

キャンプ部屋には古き良きものをすべて積み込みました。常に雑多で散らかっていて、「ルール」は作らない。「使用するために床に雑巾掛けをする」という暗黙の決まりのみが存在していて、あとは設置者の心意気を汲まなければなりません。そこには「掟」があり、ノイズがあり、言葉の外で繋がる空間が広がっています。

早速一つの実験結果が生まれています。若者たち(リーダーたち)は呼んでもないのに、毎日のようにキャンプ部屋にやってくるようになりました。部屋にアフォードされているのです。

そしてこれからさらなる実験が始まります。いつか終わる(死ぬ)とわかっていてなぜそれが存在(生きる)のか?いつか消えるキャンプ部屋だからこそ、人はそこで奇跡を「記憶」するでしょう。

(神戸YMCA三宮会館207号室)



「心」も「身体」も健康に

ウエルネスセンター

皆さま、「無理をしていませんか?」「頑張り過ぎていませんか?」「結果ばかり気にしていませんか?」コロナ禍での生活へと変わり、子どもから大人までさまざまな負担が増えたのではないかとお察しいたします。

ウエルネスセンターの【ウエルネス<wellness>】とは心身の健康を維持・発展させようとする、より積極的なライフスタイル(生活行動)のことを言います。運動を通して身体の健康を保つのはもちろんのこと、休むことも大切なトレーニングです。趣味に興じることや友人とおしゃべりをして、心身のリラックスを得ることも大切です。身体活動はもちろん、やりたいことや興味のある活動を通して、真の健康状態に近づけたら嬉しいですね。

私たちは「こどもたちから大人の方まで、すべての人々が自分らしく心と身体を育み、いのちを輝かせることができる」センターを目指しています。フィットネスやこどもの活動を行っていますが、皆さまがふと立ち寄りたくなるような場所でもありたいと思っています。お近くをお通りの際は是非お立ち寄りください。心よりお待ち申しあげております。



「国境を越えたつながり」

神戸YMCA学院専門学校日本語学科

日本語学科では、4月に新入生22名を迎えました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により入国制限措置が継続されているため、新入生のうち12名が未だ来日できていません。来日できない学生が海外からでも授業を受けられるように、現在ハイブリッド授業を実施しています。各教室に大きなモニターがあり、休み時間に教室にいる学生は積極的に海外の学生とモニター越しで会話をしています。

そのほか、日本語学科では「日本語サポート制度」があり、学生に日本人との会話の機会を提供しています。今年は海外の学生も参加できるように、オンラインでサポート制度を実施しています。まだ来日できていない留学生が日本人ボランティアとつながり、Zoomを通して、日本語の会話を楽しんでいます。学生から「オンライン上での会話なので、気まずいかと思いましたが、とても楽しかった!」との声がありました。

制限が多い状況ですが、さまざまな方法で海外の学生とつながって、楽しく勉強しています。早く入国制限が解除され、対面での授業、サポートができますように!



灯台

Light House

No.32

総主事 井上 真二



「コープさん」

生活協同組合コープこうべは生協の父・賀川豊彦さん指導のもと、1921年に前身となる神戸購買組合と灘購買組合が相次いで誕生してから100周年を迎えられました。

キリスト教社会運動家の賀川さんはイエス団創始者で神戸YMCAの有力な支援者でもありました。コープさんの100年の歩みを見ると、創立当初から現在の地域担当につながる「御用聞き」を荷車や自転車で行き、第一次オイルショックの後には省資源活動の一環として店舗のサービスで提供していた包装紙類の節約を呼びかけ、コープバッグや買い物袋再利用運動が開始されています。

活動の一例しか紹介できませんが、組合員や地域のくらしを支え豊かにする事業や活動を展開し、一人ではできないことも、みんなの力を合わせて願いや夢をかたちにする「愛と協同」の精神を原点に歩み続けてこられました。

現在、コープ店内で流れているポストコロナメッセージソング「さんぶんに」は、半分ずつでは意味がなくて余った喜びを誰に渡すのか、多すぎるしんどさをどう受け止めるのかという思いやりが試されているということや、サビの部分の“分かち合うことをIとYOU(愛という)”や、“今、すべき努力を「愛」と「予防」(愛と呼ぼう)”という歌詞にも思いやりを大切にというメッセージが込められていることです。

創立100年の節目に馬場一郎さん(神戸YMCA常議員、社会福祉法人神戸YMCA福祉会監事、西宮ワイズメンズクラブ、元職員)が理事長に就任されました。コープこうべさんとはこれまでさまざまな形で連携してきましたが、更に地域のために関係を深めていきたいと思えます。

R E P O R T

学園都市YMCA保育ルーム

自然を楽しむ

学園都市YMCA保育ルームは2020年4月に開所し今年で2年目を迎えました。今年度は9名のこどもたちを新たに迎え、14名で過ごしています。4月当初は大きな泣き声が部屋いっぱいに響いていましたが、今ではたくさんの笑顔で溢れています。

保育ルームでは、年齢の違う1歳児たんぼ組と2歳児ちゅうりっぷ組のこどもたちが共に生活して、午前中お天気のいい日には毎日近隣の公園に出かけます。たんぼ組は、立ち乗りバギーに乗って出かけますが、ちゅうりっぷ組はお友達と手をつないで

歩いて行きます。目に入るもの全てに興味津々で、途中何度も寄り道をするのでなかなか目的地にはたどり着きませんが、花や虫、さまざまな自然に触れながら毎回の散歩を楽しんでいます。最近では、暑くなってきたので砂場に水を汲んできて泥んこ遊びを楽しんでいます。初めは、汚れることに抵抗のあったこどもたちも今ではドロドロになって遊んでいます。

依然、コロナ禍での保育は継続中ですが、やるべき感染対策をしながら神様の見守りの中、こどもたちは元気一杯過ごしています。



浜脇留守家庭児童育成センター

みんなで創るお誕生日会

西宮YMCAでは、西宮市より指定管理者としての選定を受け、浜脇留守家庭児童育成センターで学童保育を行っています。現在1~5年生の計142名の子どもたちと日々過ごしています。今年度に入り、昨年度は中止せざるを得なかった行事も創意工夫をし、形を変えて徐々に行うことができます。

例えば、毎月行っていたお誕生日会では、一堂に集まることができないので、お誕生日のこどもが3つの部屋を回るスタイルになりました。部屋ごとに3年生が中心になって、どんなお祝いをしようか考え、季節を感じられる飾りつけを作るなどこどもたちが毎月計画して準備をしています。当日は、こどもたちがで

んでん太鼓を作って祝う部屋や、くす玉を準備して祝う部屋など、それぞれの部屋ごとに違ったお祝いを3回味わうことができるようになりました。

喜ぶ人と共に喜び、共に祝いあい、こどもたちが創りあげたお誕生日会は素敵な時間となっています。「緊張したけどみんなにお祝いしてもらえて嬉しい!」「久しぶりにお誕生日会ができて楽しかったな」と、離れていた心もまた1つになれた気がしました。

まだまだ142名全員で集うことは難しく、マスクで表情が見えにくい日々ですが、笑顔を絶やさず豊かさを失わない場でありたいと思います。



神戸市立垂水体育館

身近なひらかれた場所

垂水体育館では4月の緊急事態宣言発令に伴い、5月12日より感染症対策を実施したうえで営業時間を変更して運営が再開されました。

今年度のイベントについては開館時間の制限などによりまだ開催できていませんが、体育館運営再開後に利用者の方から体育館が開いているということがどれだけ大切だったのかを改めて感じたなど嬉しいご意見もいただきました。地域の方々とともに設置された体育館として現敷地での最終運営年度を大切に、次年度から新たに設置予定される新

垂水体育館に公平公正につなげていきたいと考えています。

また、4月30日よりインターネット予約の経験がない方でも市民の皆様が快適に申請いただけるようサポートする窓口として、新型コロナワクチン接種予約「お助け隊」として体育館ロビー待機スペースの一部を仕切り(6月末終了)場所提供協力を行っています。

垂水体育館だけではなく東灘・須磨体育館で同様に協力体制をとっており、今後も地域の身近なひらかれた場所として貢献をしていきます。



こくさいのまど

シェアハウス「みんなのいえ」を通じた居住支援

いつもYMCA国際協力募金でのご支援ありがとうございます。PHD協会は2020年10月1日に「国際協力・交流シェアハウスみんなのいえ」をオープンしました。難民申請者の方やコロナ禍で困窮する外国人の方の一時滞在スペースであり、PHD運動提唱者である岩村昇先生が掲げられた「共に生きる」という当会の理念を具現化する場でもあります。

「みんなのいえ」は神戸市長田区にあり、定員は9名です。原稿執筆時点で延べ10名の方が利用されました。入管から仮放免を受けた人、在留資格を喪失しホームレスになってしまった人、結核になり家も仕事も失ってしまった人、コロナ禍でアルバイトが雇止めになってしまった人など、公的サービスでは行き場がない人に利用してもらっています。

このように事情は様々ありますが、最低限の衣食住を整え、次のステップを歩んでいくための場になればと思っています。

他方で、これらの方の相談対応を通じて、私たちの社会は今や留学生を含む外国人労働者なくしては成り立たない社会になっていることを痛感します。だからこそ安価な労働力としての受け入れではなく、私たちの隣人として共に生きていきたいと思っています。

皆さまからお寄せいただいたYMCA国際協力募金の一部は「みんなのいえ」を維持するための資金とさせていただきます。また神戸YMCAからは食料品や生理用品の寄贈もいただいております。シェアハウス入居者や困窮している留学生たちに提供させて

PHD協会 事務局長 坂西卓郎さん

いただいています。この場をお借りして深くお礼申しあげます。



キャンプ連載「私たちはどこから来て、どこへ行くのか？」

<道徳的社会的な前提条件としてのキャンプ教育> キャンプディレクター 阪田 晃一

「私たち」の歴史をホモ・サピエンス史として考えると、それは「生き残るため」の効率化の歴史と言えます。

ヒトは森を出たことで地球の乾燥化という気候変動を生き延びました。乾燥化により森林面積が縮小したからです。ヒトは森を出たことで外敵に襲われる確率が高まり、集団で暮らすようになりました。集団で暮らすことにした結果、共同体のコストを背負うようになりました。食うか食われるかの直接的コスト、仲間集団がちゃんと生き残れるかどうかの間接的コスト、そして「タダ乗り野郎コスト」の3つでした。ちなみにタダ乗り野郎とは「労せず便益を掻っ攫う者」のことで、フリーライダーとして現代でも共同体の崩壊に一役買っています。

このコストはとりわけ下位層のメスが負担します。断続的なストレスがメスに降りかかると、月経不順が起りやがて不妊に至ります。それでは本末転倒だと、共同体の人数を少なくすることでコストをコントロールし、毛繕いを通してストレスを緩和することで、集団生存確率を上げてきました。つまり肌と肌が触れ合うくらいの絆があ

る小さな仲間集団で生きることが、私たちが生き残るための根源的な最適解なのです。毛繕いはその後笑いや歌、踊りに進化します。焚き火を囲んだ時、私たちはそれを思い出します。

そもそも人間の活動は「移動すること、食べること、休むこと、寝ること、そして社会生活を営むこと」の5つです。私たちは生き残るために、これらの活動を効率的に行うように進化してきました。もちろん道具の使用も速く楽に目的に到達するためのものです。

そうです。もうお分かりのように、私たちは生き残るために合理的なのです。だから前回論じた「近代化」は、必然の帰結と言えます。しかし私たちはそのことに自覚的でなければなりません。なぜなら近代化によって、すでに道具から、技術から、集団生存戦略という本能から切り離された近代社会は回らなくなってきているからです。

キャンプ場での生活が「自然過程」に近く、大規模定住前の様相を感じさせることには意味があります。なぜなら生き残るために必死な場合にのみ見えてくる「道徳的」な問いに、キャンパーがそこで出会う可能性があるからです。

2021年度神戸YMCA大会(総会)を終えて～会員表彰～

皆さまのお働きに感謝申し上げます。

■名誉会員

阿部望さん、阿部典穂さん、岡田佑一郎さん、熊谷親啓さん、丹羽和子さん、星野昌枝さん

新しく名誉会員となられた方々をご紹介します。名誉会員とは、通算20年以上神戸キリスト教青年会(神戸YMCA)の維持会員であって、YMCAの発展に特に貢献があった方の中から、常議員会の推挙を受けられた方々です。(紙面の都合上、お名前のみのご紹介となりますがご了承ください)

■ボランティア奨励賞

近藤慎一さん、杉本裕子さん(太山寺児童館)

ボランティアとして特に顕著な貢献をされた方をご紹介します。現場責任者等からの推薦を受け、常議員会にて推挙された方々です。

杉本裕子さんと近藤慎一さんには、太山寺児童館で、放課後学習会のボランティアとして子どもたちの学習指導をサポートいただいています。国語の音読を丁寧に聴き、躓きのあった所ではやさしく助言をくださったたり、算数の問題では子どもたちにとって分かる説明をくださったりしています。学習後、お迎えにくる保護者からの相談にも親身になって対応いただくなど、「放課後学習会」でお二人は、なくてはならない存在です。

神戸YMCAの使命 (日本YMCA基本原則)

- イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学びます。
- すべての人びとの全人的な成長を願い、いのちを守り育てます。
- 人権を守り、喜びと痛みを分かちあう社会をめざします。
- 世界の人びとと共に、平和の実現に努めます。

神戸YMCAの願い (日本YMCA中期計画2020)

すべての「いのち」が光り輝くように、これを守り育てます。そのための活動に世代を超えた市民の参加を求め、その活動を通して新しいコミュニティを創造します。

ワイズメンズクラブ六甲部主催 チャリティーゴルフ大会開催!

6月2日(水)、梅雨の中休みの絶好のコンディションの下で、チャリティーゴルフ大会がワイズメンズクラブ六甲部(安行英文部長)の主催で行われました。新型コロナウイルス感染リスクを下げるため、プレイ終了後の表彰式や懇親会は行わず、前半ハーフラウンドのダブルペリアで順位を決定するという方法で行いました。25名の参加を得て楽しみと交わりのひと時となりました。頂いたチャリティーは神戸YMCAの諸活動の支援のために用いさせていただきます。また、千刈カンツリー倶楽部様にも多大なるご協力と景品等のご支援を賜りました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



感謝・寄附

(敬称略、順不同)(前号掲載以降～6/15現在)

寄附

堂本 将司、田川 勝三、田川 善己、吉野 泰史、山田 容子、山口 政紀、山口 洋子、万本 敬一、中村 博一、矢野 勇治、山口 敬子、武田 寿子、川島 恵美、小笠原 美根、岩本 三好、加藤 金行、大西 弘一、山本 常雄、桂 幸生、森本 恭実、前橋 延光、前橋 禎子、河野 彰、尾上 尚司、岡野 泰和、鶴丹谷 剛、進藤 啓介、前田 祐治、松永 今日子、神戸西ワイズメンズクラブ、西宮ワイズメンズクラブ、塚家ワイズメンズクラブ

ポジティブネット募金

大野 勉、家山 華子、神戸ワイズメンズクラブ

学生生活支援募金

浅井 まゆみ、ワイズメンズクラブ六甲部

国際協力募金

安室 憲一、木下 正人、株式会社スリーエーネットワーク
この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。

ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市
西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401
☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077

西神戸YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園
神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011
☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045

